

2011 Western Canadian Dairy Seminar (WCDS) に参加

3月7日から12日まで、毎年カナダで開かれている WCDS に参加してきました。全国の開業獣医師仲間ら5名と酪農関係の社員3名の参加でした。

1) 3月なのになんと-25℃

成田からバンクーバーで乗り換え、そのまま内陸のエドモントンまで飛びました。このエドモントンは、スキーや氷河などで有名なバンフやジャスパーなどの観光地への入り口としても知られています。そこから車で1時間半ほどで、目的地の Red Deer (赤鹿) という名の町に到着しました。すでにその時点で-20℃、翌朝は-25℃になっていました。ホテルから会場まではわずかに500mくらいのものなのですが、久しぶりに顔が耳が痛くなりました。



-25℃の中、会場まで 500m



WCDS 会場外景



会場内の各セミナー室

2) さっそくプレカンファレンスに参加

WCDSは、9,10,11日の3日間ですが、その前日にプレカンファレンスがあります。今回は、私たちは2つの組に分かれて、それぞれプレカンファレンスに参加しました。私たちの参加したカンファレンスは、Cow Signals というものです。牛がさまざまな形で発するシグナルをどうとらえ、どうそれを農場に反映させるかというような趣旨のものです。これは日本でもすでに出版されているカウシグナルという本と共通のものです。



カウシグナルのプレカンファレンス会場と講師

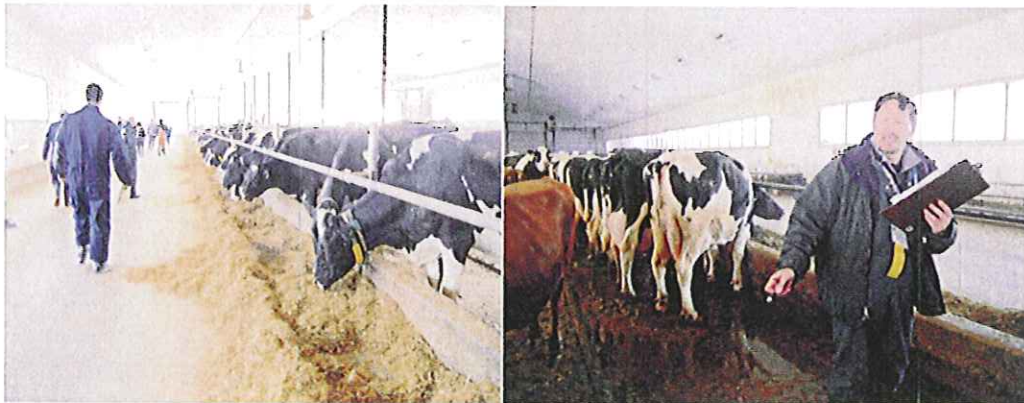
農場に向かう前に一通りの講習があり、その後資料に基づいて、それぞれが農場でのカウシグナルを評価しました。再び会場にもどり、各自良い点や改善点を一人一つずつ出し合いながらディスカッションをしました。それを総合的にコーディネーターがまとめあげるのですが、これが時間オーバーで5時くらいに終了す

定が、1時間半ほどオーバーしてやっとまとまったというほどいろいろ話ができました。それぞれ同じ視点もあれば全く異なった視点もあり退屈しませんでした。また、こうしたディスカッションをうまく引き出すことが大変に上手で、英語の苦手な私たちも何とか参加し、だれもが発言できるよう、そしてしやすいように雰囲気を持っていくことが上手でした。

農場は、完全なウオームバーンでそとは -20°C くらいあるのに中はほとんど凍っていません。しかし、不快な臭いなどなく換気もうまくいっているようでした。飼料は、ルーサンサイレージを主体に比較的荒目のTMRという印象でした。そのせいか牛の反芻は非常に強いもので、胃袋の張りもよく、痛んだ牛をみることはありませんでした。

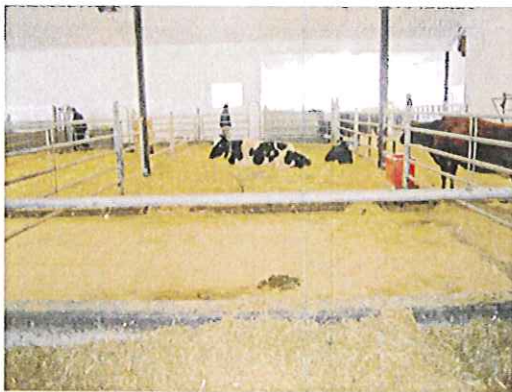


農場に向かうバスと鈴木先生・三好先生・そして私、写真を撮ったのは浜田先生

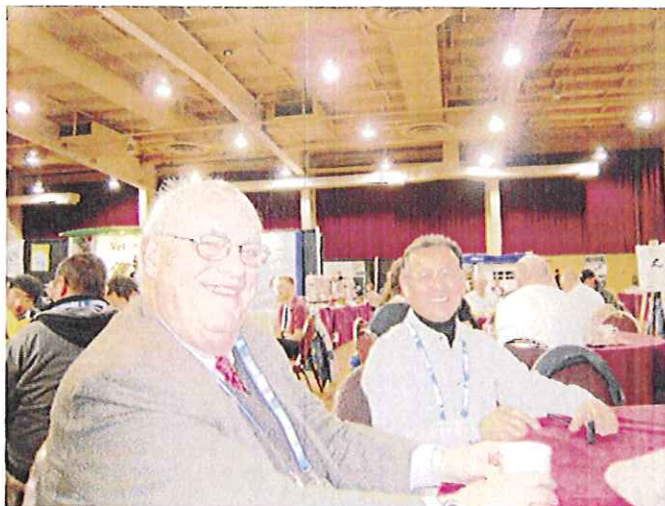


また、訪問したこの農場は120頭くらいの搾乳ですが、クオーター制が引かれているカナダでは、この農場の権利は約4億円で売ることができるのだそうです。農場に余裕を感じるのはそのせいだと確信しました。

農場内の写真の一部から若干カウシグナルが出ていますが、皆さんはどこを注目しますか？



出典ブース会場内での食事



スニッフェン先生やラリーチェイス先生もスピーカーとして会場にきていました。今回スニッフェン先生には、新しい飼料設計プログラムであるNDSを北米を中心に普及に努めているウェーバー先生を紹介いただきました。年をとってもいつもニコニコはつらつとしておられる姿に、こちらも力をいただける感じです。



WCDS 本大会セミナーの様子

プレカンファレンスについて、翌日から大会が始まりました。繁殖・栄養・乳房炎・環境問題まで様々なセミナーが3日間ありました。最終日は、アルバーター大学の大場先生から直接講習を受け、さらに Dr.Weber 先生を招いて新しい餌プログラムのNDSというプログラムについて一日講習を受けてきました。

今回は、この WCDS の発表のなかからいくつか紹介したいと思います。

*最近毎回そうなのですが、今回は特に時差に対する体の調整がうまくいかず、カナダではほとんど寝ずに終わってしまいました。帰りの飛行機もなぜかほとんど眠れず、東京についてとうとう発熱してしまいました。今回は、その発熱のため頭がボーとしてうまく文章が書けず、また技術的な紹介ができず本当に申し訳ありません。

黒 崎